中国語の離合詞の用法について
――動詞“留学”をめぐる問題――

丸尾　誠・韓　涛

1．はじめに

留学について語るときには、その経験の有無、時（期間）、場所などに言及することになる。

(1) a. 彼は北京大学に 3 年留学したことがある。
　　b. 私は中国に留学したい。

上記例 (1a)(1b) の日本語を動詞“留学”を用いて中国語に訳す場合、日本人学習者の解答には、次の例 (2a)(2b) のようなものが多く見受けられる。

(2) a. ?他在北京大学留学过三年。[1)]
　　b. *我想留学中国。

例 (2a) の成立の可否については中国語母語話者の間でも判断が分かれ、規範的ではないとする者が少なくない。また、例 (2b) については成立しない。“留学”は離合詞（離合動詞）であるが故に、「切り離して使う」「後ろに目的語をとれない」といった統語的制約から、それぞれ次のように直す必要がある。

(3) a. 他在北京大学留过三年学。
　　b. 我想去中国留学。

しかしながら、動詞“留学”が切り離して使われずに、その後に助詞“过”や時量表現、または場所目的語を伴った実例は少なくない[2)]。

(4) ……但大三时我曾作为交流学生去瑞典留学过一年，那应该是我人生的一个转折。
（http://www.fanwen51.com/infov/1611221783.html）
［しかし、大学 3 年生のとき、私は交換学生として 1 年間、スウェーデンに留学に行った。あれが私の人生の転換点であったにちがいない。］

(5) 他年轻的时候曾经在开罗留学过一段时间，所以对这个国家有一种特殊的感情。
（家有儿女　CCL）
［彼は若いころカイロでしばらく留学していたので、この国に対して一種の特殊な感情をもっている。］

(6) “虽然他年轻时留学过日本，一定知道日本人一到年底必开忘年会，……”
（读书 vol-199　CCL）

［「彼は若いころ日本に留学したことがあって、日本人は年末になると必ず忘年会を開くことをきっと知っているはずだが……」］

そもそも、《现代汉语词典》（商务印书馆）には2016年改訂の第 7 版以前のものも含めて“留学”が場所目的語を伴った“留学美国”の形が、動詞“留学”の語義項目の例として示されており、他の辞書にも当該の例は見られる。

(7) 他早年曾经留学英国［彼は若いころイギリスに留学したことがある］

（『講談社 中日辞典』第 3 版，2010年，1974頁 日本語訳も原文のまま）

こうした組み合わせが示されているにもかかわらず、なぜ例 (2b) は成立しないのであろうか。本稿では離合詞全般に関わる文法的特徴を念頭に、動詞“留学”の用法を取り上げ、その統語的振る舞いの動機づけについて考察する。

2．離合詞の認定について

次の例では、動詞“打工、购物、旅游、看病”の間に“过”が入った形でそれぞれ使われている[3)]。

(8) 所以，我便找了一些去城里打过工、购过物、旅过游或看过病的乡下人，让他们谈谈自己的印象，尤其是要挑挑城里人的“毛病”。 （厦门晚报2001 BCC）

［だから、私はアルバイト、買い物、旅行をしたり、あるいは（医者の）診断を受けたりするために町へ行ったことのある田舎の人を探して、彼らに自分の印象を話してもらい、とりわけ町の人の「あら探し」をしてもらった。］

離合詞については一般的に「一語に見えるものの、文法的には切り離して、その間に他の成分を挿入することができる動詞」と説明され、単語およびフレーズの性格を兼ね備えている。例えば、離合詞“散步”は“*散步一会儿”の形では不成立で、“散一会儿步”のように切り離して使わなければならないのに対し、“请假”については“请假三天”“请三天假”のどちらの形でも成立するなど、各語によって用法に差が見られる。これまでに離合詞に関する先行研究は多く見られるものの、その定義、範囲、認定方法、構成要素などに対する解釈について統一的な見解には至っていない。しかしながら、外国人中国語学習者がうまく使いこなせないということは多くの中国語教員および研究者が認識しており、対外漢語教学という面からも、有効な教授法・学習法の確立が望まれるところである。

外国人学習者が離合詞を認定する際に通常、判断の基準とするのは、辞書の見出し語のピンイン表記に併用される「//」類の記号の有無である。ただし、この表示は絶対的なものではなく、その有無については辞書によって差が見られる。例えば“退休”は《现代汉语词典 第 7 版》（以下《现汉》と表記）では tuì//xiū とあるのに対し、『講談社 中日辞典 第 3 版』（以下『講談社』）や『中日辞典 第 3 版』（小学館，2016年。以下『小学館』）では tuìxiū と「//」

なしで示されている。“绑架”などは『プログレッシブ中国語辞典 第2版』（小学館，2013年）や『東方中国語辞典』（東方書店，2004年）では bǎng//jià のように表示されているものの、次の例では切り離して用いることはできない。

(9) *她被绑过一次架。→ 她被绑架过一次。［彼女は1度誘拐されたことがある。］

“绑架”は《现汉》、『講談社』および『小学館』では「//」なしで bǎngjià と表記されている。《现汉》では切り離して使えるという意味で見出し語“回来”のピンイン表記を huí//·lái とした上で、これに動詞という品詞を付与しているが故に、俗に言う離合詞との境界が曖昧に感じられる。すなわち《现汉》が動詞として示している“看见 kàn//jiàn”“忘掉 wàng//diào”なども含めて、これらは教学上はフレーズ扱いされるものであり、（語としての）離合詞とは区別される。ただし“Ｖ掉”（Ｖは動詞）は「動詞＋結果補語」から成る生産的な組み合わせであるものの、“失掉 shīdiào”は一語化された動詞となるなど、中国語では語とフレーズの境界については明確に区分しがたい面があることは否定できない。“看清”などは『講談社』では動詞、『小学館』では動補フレーズとしてそれぞれ扱われている。一方で、“Ｖ在／到／给”のような形はその後ろに“了”をとることができることから（例：住在了东京）、教学上はひとまとまりの複合動詞と見なされることも少なくない。《汉语水平词汇与汉字等级大纲（修订本）》（经济科学出版社，2001年）では教学上の利便性に鑑み、ピンイン表記は“分写”（「//」表記はなし）で品詞が付与されない「フレーズ・離合詞」という同一区分の扱いとなっている（同書6頁参照）。

3．離合詞の語構成

3.1　離合詞の分類 (1)

離合詞（XY）を構成する2つの構成要素（ＸとＹ）の主な関係には次のようなものが挙げられる（他に“同学”のような修飾関係などもあり）。

【動目関係】 例：毕业、结婚、生气、起床、握手、点头、见面、做梦

【動補関係】 例：打败、提高、推翻

【並列関係】 例：洗澡、游泳、跳舞、考试、睡觉、记录、散步

例えば「写真を撮る」の意味を表す動詞“照相”と“拍照”については、前者は動目関係、後者は並列関係と語構成が異なるものの、ともに離合詞である。離合詞の中では、動目関係から成るものがそのほとんどを占める。並列構造の“洗澡、睡觉”などは2つ目の構成要素があたかも目的語であるかのような統語的振る舞いをすることにより、これらを動目関係に区分する者も少なくない[4)]。

動補構造から成る離合詞に関しては、これまで扱われてきたものの中に“听见、看到、变成”（李清华1983: 98）のような教学上はフレーズとして扱われるものが混在しており、ここ

からも、離合詞に対する定義の曖昧さがうかがえる。例えば“打倒”は一般に離合詞（すなわち「語」）と見なされるものの、動補関係のものを離合詞と認めない史有为1983は“打倒”を“吃饱”と同じく「フレーズ」と見なす。両者は切り離せる程度が限定されているか（例：打〔得／不〕倒）、さらなる拡張形式を有するか（例：吃〔得／不〕饱、吃得很饱……）の違いであり、前者を“动结式的粘连短语”（242頁）と称している。多くの場合、動目構造と見なされる“帮忙”についても、赵淑华・张宝林1996: 51は“忙”は“帮”の対象ではなく原因（すなわち「忙しいから手伝う」の意）であると見なすなど、見解が分かれる。

また、次の例では一語の動詞“说明”が動補フレーズ“说明白”“说清楚”などの場合と同様に、切り離して用いられている。

(10) 用母语听说读写，对一个普通人来说，或许不成问题。但是要想听得清、说得明、读得懂、写得好却并不容易。（http://www.guoxue.com/?p=37801）
［（前略）しかし、はっきり聞こう、明確に言おう、読んで理解しよう、ちゃんと書こうとすると、決して容易ではない。］

(11) 最道不清说不明（http://www.jianshu.com/p/f64f0c643706）
［最もはっきり言えないこと（文章の題目）］

しかしながら“说明”には通常、離合詞としての用法は見られず、ここでも動補構造のフレーズの間に“得／不”を挿入した可能補語への拡張に限定されていることに加えて、同類の語句の列挙という言語環境が上記“说得明”や“说不明”という表現を支える動機づけとなっている。その場合、「説明する」というまとまった意味ではなく、「言って明らかになる」という因果関係の意味（動補構造の複合語“説明”の原義に戻すことになる）が前景化されている。こうした二音節語を切り離して使用する用法は、次の形容詞“幽默”を用いた場合にも見出せる。

(12) ……孙家正真诚地表示对这一拍摄行动的欢迎和支持，然后幽了一默：（人民日报2000年　CCL）
［孫家正は真心をこめてこの撮影行為に対して、歓迎と支持の気持ちを表し、それからジョークを 1 つ言った］

(13) ……这位熟谙东方文化的法国总统不忘幽上一默：“中国白酒和法国葡萄酒一样闻名于世，但在我看来白酒更伟大，……”（新华社2004年新闻报道　CCL）
［この東方文化を熟知したフランス大統領はユーモアを交えるのを忘れなかった：「中国の白酒はフランスのワインと同様にその名をこの世に知られているものの、私が思うに白酒の方がさらに偉大で……」］

(14) 我说：你就这样信我？她幽了我一默：你的眼睛泄了密，它告诉我，你是个善良的人。（谢宗玉《谢宗玉文集》 BCC）
［私が「君はそんなに私のことを信じているの？」と言うと、彼女は私に冗談を言っ

た：「あなたの目が秘密を漏らしているわ。あなたがいい人だって。」］

“幽默”は外来語を音訳した単純語であるが、ここでは“幽”と“默”という字が語と同等の資格で用いられている。この他に虚義の“他”（例：睡他一觉）を用いた“幽他一默”［ユーモアを言ってやろう］や“幽了一个英国式的默”［イギリス風の冗談を 1 つ言った］のような組み合わせも見られる[5)]。

このように、二音節という形式的な類推により、動目構造の離合詞に準じて切り離して用いられるようになるケースが少なくない。規範重視の観点から二音節語の安易な切り離しの傾向を戒める論調が見られる一方で、今回本稿で扱っている離合詞“留学”については、逆に切り離さずに用いる用法を認める母語話者が増えてきている[6)]。2 つの動詞を組み合わせた並列構造の離合詞には“洗澡、游泳”のような同義関係にあるものと“睡觉”のような反義関係[7)]にあるものが見られるが、“留学”はこのどちらのタイプにも属さず、「（その地に）留まって学ぶ」という意味の連動構造に相当するものである。連動連語（フレーズ）について、輿水・島田2009は「述語性成分がポーズや接続成分を置かずに 2 つ以上並び……」（31頁）と述べている。連動構造のフレーズを統語的に見ると、第 1 の成分である動詞に“了”のようなアスペクト助詞を伴うと動作の段階性が際立つこととなる。

(15) a. 切了吃［切ってから食べる］
　　b. 烤了吃［焼いてから食べる］
　　c. 买了东西回家［買い物をしてから帰る］

“留学”の“留”と“学”という行為の間には段階の推移は想定できず、また“留学”の“学”には動目型の離合詞の目的語に多く見られるように名詞的な性格を帯びることもないといった点に（ただし後述 (31d, e) のように、“学”の前置は可能である）、“留学”で一語化した上で助詞“过”が付加された“留学过”のような形をとる動因が見出せる。次に、この“留学”と時量表現が共起する状況について見ていく。

数量詞（フレーズ）が統語構造に対して制約を及ぼし得ることは、陆俭明1988などの研究からも見てとれる。例えば、次の例 (16) に示される 2 つのフレーズは、数量詞がなければ成立しない。

(16) a.*摔碎玻璃 → 摔碎两块玻璃［2 枚のガラスを粉々に割った］
　　b.*雪白衬衣 → 雪白一件衬衣［1 枚の雪のように白いシャツ］

離合詞も一種の統語構造として捉えられ、数量表現と共起する際には、ある種の制約が見られる。例えば、“见面”という離合詞の間に“了”が入った“?我昨天和小王见了面。”では言い切りの表現にはならず、“我昨天和小王见了一个面。”としなければならない。また、“见面”が“一个”と共起する場合には、“见一个面”のように必ず切り離して用いる必要があり（口語では“一”や“个”を省略した“见个面”や“见一面”の形も成立する）、“*见面一个”のような形は成立しない。そして、人称代詞の“你”や“他”が入ると、量詞を用いた“*见你

（／他）一个面”では成立しなくなり、“见你（／他）一面”とする必要がある。

離合詞と時量表現の組み合わせについては、その成立の可否によって、次の表 1 のように 3 つのタイプに分類できる。

表 1 離合詞と時量表現の位置関係

タイプ	例
タイプ A（後置型）	结婚十年了／*结了十年婚
タイプ B（中間型）	*洗澡一天了／ 洗了一天澡
タイプ C（後置＋中間型）	留学十年了／ 留了十年学

タイプ A は時量表現が離合詞の後に置かれる後置型であり、“结婚”以外に“毕业、怀孕、订婚、失业、出院、移民、下班”などが同様の例として挙げられる。これに対し、タイプ B は時量表現が離合詞の間に置かれる中間型で、“洗澡”に加えて、“散步、睡觉、跳舞、游泳、加班”などがこのタイプに該当する。そして、後置・挿入のいずれもが可能であるタイプ C には、“留学”に加えて“请假、参军、生病、发烧”などが挙げられる。以下、離合詞の用法に見られるこうした統語的差異、および動詞“留学”のタイプ C としての用法について考察する。

タイプ A のような言語事象については、原 1992 に言及が見られる。

(17) a. 她毕业三年了。［彼女は卒業して三年になる。］
b. *她毕了三年业了。

(18) a. 她怀孕快六个月了。［彼女は妊娠してもうすぐ 6 ヶ月になる。］
b. *她怀了六个月孕了。

(19) a. 他们俩刚订婚两个月了。［彼らふたりは婚約して 2 ヶ月になったばかりだ。］
b. *他们俩刚订了两个月婚了。

（原 1992: 34–35 日本語訳も原文のまま。体裁は引用者による）

このような統語的振る舞いについて、原 1992 では動詞“毕业、怀孕、订婚”はいずれも「一回の動作の完結性が高いもの」（36 頁）であり、継続時間ではなく経過時間を表すという意味特徴と関連付けて解釈している。

これに対し、タイプ B については時量表現が離合詞の間に置かれると、意味上後ろの成分と関わることになる。その証左として時量表現と後ろの成分の間に“的”が入る（例：洗了一天的澡）、時量表現と後ろの成分が前置できる（例：一天澡都没洗过）といった統語的操作が可能であることが挙げられる。このように考えると、時量表現が離合詞の間に置かれる中間型は、時量表現と離合詞の後ろの成分が意味上一つのかたまりをなしており、動作の継続時間を表すことになる。“洗澡”の例で言うと、“洗了一天澡”は「一日お風呂に入っていた」という継続義を表す。これは同時にタイプ A の時量表現が離合詞の間にくることを排除する理由と

もなる。なぜならばタイプAに属する離合詞、例えば“结婚”や“毕业”は意味の上で瞬間動詞として考えられるからである。次の例(20)が示しているように、副詞“一直”［ずっと］はタイプBに属する“洗澡、睡觉、跳舞、游泳”とは問題なく共起できるのに対し、タイプAに属する“结婚、毕业、出院、移民”と共起することはできない。

(20) a. 一直在｛洗澡／睡觉／跳舞／游泳｝
［ずっと｛風呂に入って／寝て／踊って／泳いで｝いる］
b.*一直在｛结婚／毕业／出院／移民｝

タイプAのような時量表現が離合詞の後ろにくる後置型は、動目（あるいはこれに準じる）構造の離合詞が意味上一つのかたまりをなしているため、動作終了後の経過時間を表すことになる。沈家煊1995は人間の認知上に形成された（空間や動作、性状における）「有界」と「無界」という対立した概念が、中国語の文法構造にどのように反映されているかを明らかにしたという点で後の文法研究に大きな影響を与えた論文の1つであるが、本稿においてもこの認知的な概念を援用して考えれば、タイプAに属する離合詞はいずれも「有界動詞」、タイプBに属する離合詞は「無界動詞」ということになる。

それらに対し、タイプCに属する“留学”は「有界」と「無界」両方の性質を有しており、時量表現が離合詞の後ろに置かれた場合には「有界動詞」として経過時間を表し（タイプA）、時量表現が離合詞の間に置かれた場合には「無界動詞」として継続時間を表すことになる（タイプB）。

(21) a. 留学十年了［留学して10年になる］
b. 留了十年学［10年間留学した］

(21a, b)はともに留学期間について述べたものであるが、経過時間と継続時間という概念により、発話時との関連から(21a)「留学は継続中」、(21b)「留学は終了」というアスペクトの差に反映される。例えば、

(22) “在英国伦敦留学四年了，两年预科，两年本科，学数学经济”吴戈说，……”
（http://news.xinhuanet.com/olympic/2004-08/26/content_1890403.htm）
［「イギリスのロンドンに留学して4年になる。最初の2年は予科で、その後の2年は本科で数学経済を学んでいる」と呉戈さんは言った。……」］

(23) 孙海平去美国留了几年学回来，道行更加深厚，成为国内少有的学者型教练。
（http://news.xinhuanet.com/olympic/2004-08/27/content_1892068.htm）
［孫海平さんがアメリカに数年留学して戻ってきて、さらにレベルアップし、国内で数少ない学者タイプのコーチになった。］

例(22)では現在留学中（在学中）であるという発話時点までの経過時間が表されている。一方、例(23)では動作主体は数年間留学を継続し、今は帰国している。したがって、(22)“留学四年了”、(23)“留了几年学”をそれぞれ“留了四年学”“留学几年了”と置き換えることはで

きない。

3.2 離合詞の分類 (2)

“结婚”“散步”が離合詞であることを日本人学習者が理解するために、それぞれ「婚ヲ結ブ」「歩（／歩ミ）ヲ散スル」と解釈はできても、中国語の“婚”“步”は自由形態素ではない。そもそも“散步”は3.1で見たように並列関係から成るもので、「〜ヲ」と解される動目関係から成るものではない。一般に離合詞と見なされるものの形態素の組み合わせは、以下のように区分される（以下、自由形態素を F 、拘束形態素を B とする）。

FF: 登记、投票、滑冰、请假、起床、生气、帮忙、聊天儿

FB: 照相、结婚、洗澡、打架、见面、游泳

BF: 着急、革命、罢工

BB: 毕业、散步、鞠躬

このリストの中の“照相”を赵淑华・张宝林1996: 48は FF と見なし、また“洗澡”の“澡”および“结婚”の“婚”を吕叔湘1959: 363は名詞（すなわち F ）と見なすなど、その区分には揺れが見られる。一方、柯彼德1994は“‘你结婚吗？’一般情况下不用孤立的Ｖ成分‘结。’来回答。”（120頁）［“你结婚吗？”には一般の状況では単独のＶ成分“结。”を用いて答えることはしない。］と述べて“结”を B と判断するものの、“他们结婚了吗？— 结了。”のような“了”が加わった形では成立するのであり、 B か F かの判断には形態素の「単独」使用に対する捉え方が関わることになる。

ただし、離合詞の用法は「動詞＋目的語」のケースに準じるものであり、動目構造における２つ目の構成要素に形容詞や動詞さらには拘束形態素が充てられた場合にも、これらが（自由形態素の）名詞と同等に扱われる。

(24) a. 帮忙、着凉 【後ろの構成要素が形容詞】
b. 着急、考试、登记 【後ろの構成要素が動詞】

(25) 婚，既然可以结，当然也就可以离，再正常不过的了。
（池莉《来来往往》 http://www.kanunu8.com/book/3641/35467.html）
［結婚できるのなら、当然のことながら離婚もできる。正常なことこの上ない。］

(26) 李小兰领小菊去洗了个头和澡，替她买了洗头膏、香肥皂…… （池莉《太阳出世》98）
［李小蘭は小菊を洗髪と入浴に連れていった。彼女のためにシャンプーと化粧石けんを買い……］

(27) 他鞠了个短，硬，而十分恭敬的躬，…… （老舍《四世同堂》77–78）
［彼は短く、ぎこちないが十分に恭しいお辞儀をし、……］

例 (25) では“结婚、离婚”がそれぞれ切り離されて、共通する（拘束形態素の）“婚”が前置されている。例 (26) では自由形態素の“头”と拘束形態素の“澡”が対等に扱われている。

例 (27) の“鞠躬”などは日本人学習者にとって離合詞と捉えること自体が容易ではなく、“躬”の意味を取り立てて考えることはない。その点では“洗澡、睡覚”の“澡、覚”の意味についても同様である。崔四行2008: 63は韻律の観点からXYがフレーズであればYは“重音”であり、“咳嗽 késou”は軽声を含むが故に、これを切り離して“咳了一个嗽”と言うことはできないものの、「切り離して用いざるを得ない」場合には“嗽”が“重读”されると述べており、次の例でも“嗽”は確かに第4声で発音される。

(28) 她停了片刻，用手帕掩住嘴咳了两声嗽。　（巴金《家》228）
［彼女はしばらく黙り込むと、ハンカチで口を覆って数回咳をした。］

語を構成する要素XあるいはYの虚化の程度が高いほど自立性を失い、もう一方の成分と結び付き、1つの語としてのまとまりがより強固になる。Yが拘束形態素であること、あるいは軽声であることがここで言う虚化に相当するものの、離合詞についてはこうした成分が自由形態素のような統語的振る舞いをする。“洗一个澡”や“洗半个小时的澡”のような形からYが名詞性の目的語のように扱われることは元より、“澡洗好了吗？”のようなYが前置された形ではとりわけその自立性が前景化されることになる。赵金铭1984は“在M前加上修饰语之后，才可以倒过来”（13頁）［M（本稿でいうYに相当：引用者注）の前に修飾語を加えることにより、語順を前後入れ替えることができるようになる］と述べているが、この場合にもそのような操作により、Yが名詞（すなわちF）としての性格を帯びることになるからであろう。次の二例では前置されたYに拘束形態素および形容詞が充てられている。

(29) 九十度的躬鞠了三个　（赵金铭1984: 13）
［90度のお辞儀を3回した］

(30) “……可是老张哥，这个忙你可得帮帮呀！”　（刘知侠《铁道游击队》 BCC）
［「でも張さん、これは何とか助けてくださいよ！」］

Yが前置された次の (31) の各例を見ると、aとbではYが主題となっている（例 (25) もあわせて参照）。c～eは強調表現であり、fとgでは“把”が用いられている。

(31) a. 发理了没有？【理发】［髪切った？］
b. 觉睡得很香【睡觉】［ぐっすり眠った］
c. 连澡也不洗【洗澡】［風呂にすら入らない］
d. 家里出了事儿，连学也没留成。【留学】
［家で大変なことになって、留学すらできなかった。］
e. 我一次学也没留过。【留学】［私は1度も留学したことがない。］
f. 把心放了下来【放心】［安心した］
g. 把觉睡足了【睡觉】［十分に寝た］

インターネット上では離合詞“留学”にも“学”を前置した

(32) a. 这个学留得真是太辛苦了！（http://blog.sina.com.cn/s/blog_d2c701280101hfgv.html）

［この留学はなんて辛いんだろう！］

b. 这学留得有些不值。

（http://news.xinhuanet.com/politics/2013-07/31/c_116755118.htm）

［この留学はちょっと割に合わない。］

といった表現が見られるが、この二例はかなり口語的である。ただし、X あるいは Y の「単独」での使用の可否には差が見られる。

(33) a. 你今天散步了吗？— *散了。［君、今日散歩した？— したよ（の意味）。］

b. 他跑步了吗？— 跑了。［彼、ジョギングした？— したよ。］

(34) 他现在发烧吗？— ?烧。［彼、今熱があるの？— あります（の意味）。］

例 (33) について、a の回答が不成立なのは（同意味での）“散”が B であることに起因する（b の“跑”は F）。例 (33b) に関連して、“步”を前置した“*他步跑得很慢。”の形が成立しないのは、“步”のみで「ジョギングする」の意味を想起しえないからである（“他跑步跑得很慢。”とする必要あり）。例 (34) は Y の自立性に関わるものであるが、成立の可否に対する判断はインフォーマントによって分かれる（“烧呢。”や“烧着呢。”であれば成立可とした者もいた）。こうした問答形式についてはコンテクスト依存という要因が大きい。

(35) 洗澡要多少钱？— 一个澡五毛钱。 （施正宇 1990: 38　体裁は引用者による）

［風呂に入るのにいくらかかるの？— 1 回 5 毛です。］

(36) 你不生他气了吗？— 不生了。

［彼のこと怒ってないの？— もう怒ってないよ。］

離合詞の中で 2 つの F から構成される基本語として“抽烟、请假、得病、点头、做梦、钓鱼、跳舞”などが挙げられる。このケースでは単語かフレーズかの認定に意味が関わることもある。例えば“起床、念书［勉強する］、吃饭［食事をする］、吃苦［苦労する］”などは、その表す意味が個々の総和ではなく、語彙化して一語となっているため、中には次のように個別の要素を取り立てた場合、成立しないものが見られる。

(37) * 他床起得很早。→ 他起床起得很早。［彼は起きるのがとても早い。］

(38) ? 他冰滑得很好。→ 他滑冰滑得很好。［彼はスケートがとてもうまい。］

これらは状態補語を用いたケースであり、“他棒球打得很好。”のような動詞と目的語が任意の組み合わせとなったフレーズを用いた場合とは異なる。“滑冰”は「スケートをする」であって「氷を滑る」の意味ではない。したがって、コンテクストがあっても次のような回答は不自然となる。

(39) 他滑冰了吗？— ?滑了。［彼、スケートした？— したよ（の意味）。］

4．「“留学”＋目的語」の形

「私は来年留学したい。」を中国語で次のように表現すると不自然となる。

(40) ?明年我想留学。

“留学”は別の場所で行う行為であるが故に、中国語では移動表現が用いられる。

(41) 明年我想去留学。

“去”の後に具体的な場所を付加して

(42) 明年我想去｛中国／上海／北京大学｝留学。

［私は来年｛中国／上海／北京大学｝に留学したい。］

とすることもできる。一方で、“在＋L＋留学”（Lは場所を表す語句）の形を用いて、“在｛中国／上海／北京大学｝留学”のように、動作が行われる場所として表現することは可能であるものの、これを“想”と組み合わせて、次のように表現することはできない（発話者は例えば日本にいるものとする）。

(43) *我想在｛中国／上海／北京大学｝留学。

現在旅行で上海に来ている外国人が“我想在这儿留学。”と言うのは構わない。この場合にはすでに海外からの移動は実現している。同様に例(43)では不成立であった“*我想在上海留学。”（(43)′として再掲）について、現在北京にいる日本人が発話するのであれば問題はない。

(43)′*我想在上海留学。【発話者は日本にいる】

(44) 我想在上海留学。【発話者は同じ中国国内の北京にいる】

このように“想”を用いた場合、移動の有無に対する認識の差異が文の成立に影響を及ぼしていると言える。次のような状況では発話時点においては（中国への）移動は終了しており、文はいずれも問題なく成立する。

(45) a. 我现在在北京大学留学。【(例えば）私は今、日本に一時帰国している】

b. 他在北京大学留学。【三人称のことを述べている】

c. 我是在北京大学留的学（／留学的）。【“是～的”構文が用いられている】

離合詞の統語的特徴として、すでに語の内部に目的語に相当する成分を含んでいるため、多くの場合、その後に目的語がとれないことが挙げられる。

(46) *见面他　　*结婚他　　*毕业大学

一方、動目構造から成る離合詞でも、“放心、担心、关心、留心、出席、进口、出口、登陆[8)]”などは、その後に目的語をとることができる。

(47) 出席会议［会議に出席する］　　进口设备［設備を輸入する］

留心玻璃［ガラスに気をつける］

“出口”は“出口商品”“出口日本”のように対象および場所を目的語としてとることができる。こうしたものは他動詞として一語化していると見なされる。離合詞“留学”についても、

後ろに目的語をとった“留学美国”という形が、書名やタイトルといった特定の環境以外でも広く認められる[9]。ただし、“*留过学美国”のような形になると、本来の離合詞としての性質が顕在化し、目的語をとれなくなる。そして、この“留学美国”という形を (40) に適用した“*明年我想留学中国。”はやはり成立しない（冒頭の例 (2) も不成立であった）。

中国語では VO 構造（O は目的語）における V と O の間に多種にわたる意味関係が存在することが、これまで指摘されてきた。《汉语动词用法词典》では場所目的語を“动作或行为及于某处或在某处发生”（说明书 9）［動作や行為がある場所に及ぶまたはある場所で発生する］の意味を表すものとして、“在”フレーズを用いた変換が可能だとする統語的特徴を挙げている。以下、該当する例を示す。

(48) a. 串胡同儿 → 在胡同儿里串［路地を歩き回る］ （《汉语动词用法词典》说明书 9）
b. 睡沙发 → 在沙发上睡［ソファーで寝る］
c. 住酒店 → 在酒店住［ホテルに泊まる］
d. 教大学 → 在大学教［大学で教える］

“留学中国”についても“在中国留学”と書き換えることができる。“留学”自体は“上、回、去……”のような移動動詞とは異なり着点を O にとるものではないものの、「留学する」という概念には「よその国へ行って、そこで学ぶ」という明確な境界外への移動が前提となっている。「留学する」ための前段階となるこの移動義が、先に見た願望などこれからのことに言及する場合には前景化されることになる。これに対し、冒頭の例 (6)(7) および次の例では、移動義は背景化している。

(49) 我留学英国的时候虽然是住在英国人的家里，但是那时我是按照他们的生活方式生活的，多少有点象住在公寓里。（《甘地传》 http://www.yooread.com/10/15449/3176842.html）
［私がイギリスに留学したとき、イギリス人の家に住んでいたのだが、そのころ私は彼らの生活方式に照らして生活しており、何となくアパートに住んでいるような感じがしていた。］

《汉语常用离合词用法词典》に“‘留学’后面可以加国家名”（143 頁）［“留学”の後に国名を加えることができる］とあるように目的語は国名に限られ、“？留学＋北京／东京／伦敦／纽约”などの都市名との組み合わせでは不自然となる。この場合には前述の“在｛北京／东京／伦敦／纽约｝留学”［{北京／東京／ロンドン／ニューヨーク｝に留学する］のような介詞“在”を用いた形で表される。“在＋ L ＋ V ”における介詞フレーズ“在＋ L ”は通常統語的にオプショナルな成分であり、これをより結び付きの強い VL（すなわち VO）の形で表現するにあたって、“留学”の場合には行為の前段階となる移動を想起させる「境界の設定」という動機づけにより、L に国名であることという制約が加わることになるものと考えられる。国名に準じる“留学＋欧美／非洲／东南亚”［ヨーロッパ／アフリカ／東南アジア＋に留学する］などの組み合わせが成立する一方で、“*留学中国的南方”が成立しないのも境界に対する認識の

相違（前者では境界が明確）が影響しているものと言えよう。境界が前景化された“留学海外”［海外に留学する］でも成立する。

「“留学”＋国名」の形については高更生1998や荒川2014は“留学于”の“于”が落ちたものだと述べているが、“留学于美国”だと已然の意味を表すことになり、未実現のことに言及した“*我想留学于美国。”や“*我未曽留学于美国。”などでは成立しない。

5．おわりに

一口に離合詞と言っても、それを構成する 2 つの要素の性格が個別に反映されるため、離合詞という 1 つの範疇における文法的特徴の統一的な解釈を打ち立てるのは容易ではない。加えて、離合詞（XY）がとり得る形式（例：「X＋各種成分＋Y」「XY＋各種成分」「Y の前置＋X」ほか）についても各語によって適用の範囲に差が見られるという点で、離合詞の統語的振る舞いに対する曖昧な印象は払拭し難い。また、離合詞は口語で多く切り離して使用されることから、その表現の成立の可否には個人差・地域差・年代差による影響も大きい。本稿作成にあたって行ったインフォーマントチェックでも、離合詞の結合度に対する認識についてはかなりの差が見られた。例えば、“帮忙”を用いた“*请帮忙一下。”は不適格であるものの（正しくは“请帮一下忙。”）、“*吵架过、*离婚过一次、?生气得很”のような例も含めて、こうした規範的とは見なされない形は中国語母語話者による表現としてインターネット上では多く見られる。

本稿では日本人中国語学習者にとって身近な離合詞“留学”の用法（くっつけて使われるか、後ろに目的語を伴うか）を取り上げた。動詞“留学”は「経験を表す助詞“过”」「数量補語」「場所の導入」といった文法事項との関連で、中国語作文でも頻出のものである。同様に動詞“打工”なども授業で会話練習や作文をする際に使用頻度の高いものの 1 つに挙げられるが、この場合にはその語構成からは離合詞であることに気付きにくいことに加えて、次の例 (50a) で表すべき「私はアルバイトが終わったらすぐに帰る。」を日本人学習者は往々にして (50b) のように訳してしまう。

(50) a. 我打完工就回家。
　　b. *我打工完了就回家。

ただし、これは“在书店打过工”［本屋でアルバイトをしたことがある］を“*在书店打工过”としてしまうような離合詞の用法に対する認識不足というよりも、“打工”を「アルバイト」という名詞として捉えてしまったが故に引き起こされた結果だと思われる[10]。また、“大声”などは、これが名詞のみならず動詞としての用法を有するという知識とともに、離合詞であるが故に“大声点儿！”に加えて“大点儿声！”［もう少し大きな声で！］の形でも成立するという知識も必要となる。このように最終的には個別の語の用法を論じることになる[11]ことに加

えて、離合詞を構成する要素（XY）の結合の度合い、および語と形態素の認定などに差が見られるという点で、中国語の「文法」が“语法”と称されることに象徴されるように、離合詞の用法には個別の語の性格が色濃く反映されていると言える。

注釈

1）例の冒頭に付した「?」はその表現が不自然であることを、「*」は不適格であることを示す。

2）2001年に刊行された『誤用から学ぶ中国語』郭春貴（白帝社）でも“*我想留学中国。”は不適格となっている（22頁）。一方で、「動賓構造の動詞の一部は方言の影響で、時間量詞を目的語の後に置くこともできるようになりました」と述べて、（“他在中国留了两年学。”に加えて）“他在中国留学了两年。”の形を認めている（24頁）。

3）“旅游”は離合詞でないため、通常は切り離して使われないものの（例：*旅过两次游 → 旅游过两次［2度旅行したことがある］）、例 (8) では他の語の形式に合わせて、臨時的に切り離されている。逆に、本来“*结婚过”という形は不成立であるが、次の例では“恋爱结婚”のように 2 つの動詞が連なって用いられていることから、“结过婚”の形ではかえって不成立となる。

为此，海灯不无气忿地说：我17岁学法，26岁当法师，自幼学武，是童贞人道，一生坚持长坐不卧，日中两食，从来未跟女子恋爱结婚过，说我思念情人，纯属作者杜撰。 （厦门日报1989 BCC）

［このため、海灯はやや憤慨して言った：「私は17歳で仏法を学び、26歳で法師となった（中略）1日に 2 度しか食べず、これまで女性とは恋愛も結婚もしたことがなく、（後略）」］

4）吕冀平・戴昭铭1985では“‘洗澡’从前是并列关系，现在早已变为动宾关系。近年来‘游泳’‘考试’等也似乎有这种趋势，‘游完了泳再去划船’‘考完了试好好休息一下’之类的说法，在一些人，特别是青年人中间流行开来。”（89頁）［“洗澡”は以前は並列関係であったが、現在ではもう動目関係に変わってしまった。近年、“游泳”や“考试”などにも同様の趨勢が見られ、“游完了泳再去划船”“考完了试好好休息一下”のような言い方が一部の人、とりわけ若者の間で流行している。］と述べられている。“睡觉”については注 7 を参照。

5）この“幽默”の離合詞用法については贺水彬1993や邹哲承・黎明1994などでその規範性の是非が論じられていたが、それから年月が経った現在では新聞や小説の中でも、切り離して用いられた例が広く存在する。

6）例えば“高兴”は離合詞ではないものの、老舍・杨沫・曹禺などやや古風な現代作品には“高了兴”のように切り離して用いられた例が散見される。

a. 有时候，他高了兴，也许到西直门外的河边上，赁一领席，在柳荫下读读雪莱或莎士比亚。（老舍《四世同堂》90–91）

［時々、気分がよくなると、彼は西直門外の河辺に行って、むしろを 1 枚借りて柳の木陰でシェリーやシェークスピアを読んだ。］

b. 我高了兴就给小孩子们偷馒头吃。（杨沫《青春之歌》91）

［私はうれしくなると、子どもたちにマントーを盗んで食べさせた。］

7）“睡觉”の“觉”の原義は「目覚める」であると、周上之2006: 360や王海峰2011: 76ほかで述べられている。

8）これらの動詞は、いずれも『講談社』および『小学館』でのピンイン表記に「//」が付されている。この中の“登陆”について、华玉明1997は状語として介詞フレーズを用いた“在火星登陆”を“登陆火星”のような VO 形式に変換した場合には場所義がより明確になるとし、“动宾动词带宾式比不带宾语的原式信息更突出、意义更鲜明、语言更简练，……”（41頁）［動目動詞が目的語をとると、とらない元の形より情報が際立ち、意味がさらに鮮明となり、言葉も簡潔になる］と述べている。伝える情報に関連して、著者（韓涛）の語感では、前者が上陸地点に言及しているにすぎないのに対し、後者からは例えば「上陸後、さらにその地において何らかの行為を行う（例えば科学調査など）」といったニュアンスが強く感じられる。

9）動目関係から成る動詞が目的語をとる事象が広く見られるようになってきたことを論じる先行研究において、汪惠迪1997がシンガポールの新聞から収集したものの中に“留学”の例が入っている（ただし、“留学”は VO 構造の動詞ではない）。

留学日本却不懂日语（汪惠迪1997: 31）

［日本に留学したのに日本語が分からない］

また高更生1998は“其中有些是否能得到社会的认可，还难以预料，但是可以肯定，绝大多数是会约定俗成，得到社会承认的”（36頁）［その中には社会の承認を得られるかどうか、まだ分からないものの、大部分のものは次第に定まって一般化し、社会に認められるようになるであろう］と述べて、新たに目的語をとれるようになった VO 式の V として“帮忙、出口、登陆”などとあわせて“留学”を挙げている（38頁）。

10）次の c および d の中国語の例は「私は試験が終わったら実家に帰る。」の意味で、ともに成立する。

c. 我考完试就回老家。

d. 我考试完了就回老家。

このとき、“考试”は c では動詞、d では名詞として用いられている。

11）例えば離合詞“担心”は切り離さずに目的語、補語をその後にとることができるなど。

例：担心他／担心得很／担心死了

［彼のことを心配する／とても心配する／心配でたまらない］

参考文献

荒川清秀2014.「辞書の記述をめぐって 第87回 再び“留学”について」,『東方』第402号，東方書店。
原由起子1992.「離合詞と時量表現について」,『中国語』第385号，内山書店。
輿水優・島田亜美2009.『中国語 わかる文法』，大修館書店。
崔四行2008.〈离合词与核心重音〉,《汉语学习》第 5 期。
高更生1998.〈“动宾式动词＋宾语”的搭配规律〉,《语文建设》第 6 期。
贺水彬1993.〈从“幽了一默”谈词的离合规范化问题〉,《语文建设》第12期。
华玉明1997.〈试探动宾动词加宾语流行的根由〉,《语文建设》第10期。
柯彼德1994.〈汉语里双语素述宾结构（DVO）的性质和类型〉,『中国語学』241号。
李春玲2009.《现代汉语离合词及其离合槽研究》，辽宁人民出版社。
李清华1983.〈谈离合词的特点和用法〉,《语言教学与研究》第 3 期。
陆俭明1988.〈现代汉语中数量词的作用〉,《语法研究和探索》(4)，北京大学出版社。
吕冀平・戴昭铭1985.〈当前汉语规范工作中的几个问题〉,《中国语文》第 2 期。
吕叔湘1959.〈汉语里‘词’的问题概述〉,（《吕叔湘文集 第 2 卷 汉语语法论文集》，商务印书馆1990年，pp. 359–369所收）。
孟琮等编1999.《汉语动词用法词典》，商务印书馆。
饶勤1997.〈离合词的结构特点和语用分析—兼论中高级对外汉语离合词的教学〉,《汉语学习》第 1 期。
沈家煊1995.〈“有界”与“无界”〉,《中国语文》第 5 期。
施正宇1990.〈现代汉语离合动词的结构和特点〉,《语言学和汉语教学》胡盛仑主编，北京语言学院出版社。
史有为1983.〈划分词的普遍性原则和系统性原则〉,《语法研究和探索》(1)，北京大学出版社。
汪惠迪1997.〈“动宾式动词＋宾语”规律何在？〉,《语文建设》第 8 期。
王海峰2011.《现代汉语离合词离析形式功能研究》，北京大学出版社。
赵金铭1984.〈能扩展的“动＋名”格式的讨论〉,《语言教学与研究》第 2 期。
赵淑华・张宝林1996.〈离合词的确定与离合词的性质〉,《语言教学与研究》第 1 期。
周上之1998.〈《HSK》双音动宾结构研究〉,《对外汉语论丛》吕光旦主编，上海外语教育出版社。
周上之2006.《汉语离合词研究 — 汉语语素、词、短语的特殊性》，上海外语教育出版社。
邹哲承・黎明1994.〈从汉语句子的强势看“幽了一默”的合法性〉,《语文建设》第 9 期。

例文引用文献

《家》，巴金，人民文学出版社，1992年 7 月。
《青春之歌》，杨沫，北京十月文艺出版社，1995年 9 月。
《四世同堂 偷生》，老舍，《老舍文集》第 5 卷，人民文学出版社，1993年 3 月。
〈太阳出世〉，池莉，《太阳出世》，长江文艺出版社，1995年 3 月。
《汉语常用离合词用法词典》，周上之主编，北京语言大学出版社，2011年 9 月。

引用した例文のコーパスサイト

BCC：北京语言大学　BCC 语料库
CCL：北京大学中国语言学研究中心　CCL 语料库检索系统（网络版）

キーワード：離合詞、“留学”、語構成、目的語

Abstract

Separable Word Usage in Chinese with Particular Reference to the Verb *Liuxue* (留学)

MARUO Makoto and HAN Tao

A Chinese separable word is a verb which appears to be a single word but can be separated into two parts, with other words in between. The verb "*liuxue*" (留学) is a separable word which can be turned into a grammatical phrase "*liuguo xue*" (留过学) through the addition of an aspectual particle after its verb part. However, "*liuxueguo*" (留学过) is also considered grammatical by many Chinese native speakers. Besides, the verb "*liuxue*" is the type of separable words which can take objects, but it can only take country names such as "China" and "Japan". Rather the constructs with city names as its objects such as "**liuxue Beijing*" (留学北京) are ungrammatical. This difference in grammaticality results from the motivation to set boundaries. This paper attempts to analyze such syntactic phenomena with the focus on the usages of the separable word "*liuxue*".

Keywords: separable words, "*liuxue*" (留学) , word structure, objects